

ランカシャ紡績企業における 償却事例と清算人報告書

米 川 伸 一

はじめに

ランカシャの紡績企業の償却問題について筆者は全くの素人であるが、かねがね関心を抱いてきた。日本では第1次大戦ブーム期に、紡績企業は巨利を掌中にしたので、往々いわゆる巨大な償却、いわば簿外の秘密償却をしたことが伝えられている。大日本紡績を別とすれば、他の2大紡績企業は、2割5分や3割の配当を続け得たことから見ても、それは極めてプロウジブルと考えることが出来よう。本稿では紙幅の許す限りにおいて、出来るだけ多くの企業の償却事例を提示してみたい。念のためお断りすれば筆者の狙いは、その資料提示にありそれ以上ではない。他の拙稿と同様に最初に企業登記所 company registration office で筆記した当該企業の歴史を記し、次に資料提示に入る。この事実の記録は創立から操業を停止するまでの財務状態を示し、他企業との統一があるわけでもないが、この記録は資本がどこから調達されどこへ運用されているか、数字からその背後にある企業の営業能力や財務的情報を物語るものとして有益であると思われる。小稿の末尾には Directory Cotton Spinners, 1913年の当該企業の記録と Julian Hunt & Duncan Gurr "The Cotton Mills of Oldham" に収録されている企業—必ずしもすべての企業が記録されているわけではない—との2資料も提示したいと思う。

Newby の航跡, 前身は, Elm. C. S. C.

1919 年 12 月 19 日に再出発した当該企業は, その時には資本金 £ 250,000 として設立されていた. これは以前の Elm の後継企業であり改名されたものであった.

取締役は 3,000 から 8,000 株を所有し, 6 名の取締役がその株式の 5.5% を所有していた. 定款の 88 条には「経営や販売に従事している者が取締役のポストに着いた時は, その地位を捨てねばならない」と言う 19 世紀以来の慣行がそのまま踏襲されており, フルタイムの従業員に取締役がなることは出来なかった. 取締役の多くは Shaw 在住の者であり, 綿紡績管理者と記録されている.

工場の購入価格は £ 183,000 であり, その後も, 以前の Elm の負債を引き継いでいた.

1920 年に 1 株 10 シル合計 £ 100,000 が払い込まれ, これは当時としては払い込み割合が多かった事が注目される. 再発足時の株主は 673 名を数えたが, そのうち 154 名は短期間に株式を売却した. 1923 年には更に 159 名が売却していた. 数年の内に大多数の株主の名義が変わったことになる.

解散の決議が何時おこなわれたかは明白ではない. £ 1 株 250,000 株のうち 169,150 株が 100% 支払われていた. 1938 年清算人の最終報告が保存されている.

B. T. 31/32352

Newby Mill. 貸借対照表

(資本と負債)		(資産)	
株主に	100,000. 0. 0.	土地・建物	67,621. 15. 0.
ローン提出者に	120,886. 6. 2.	追加	<u>2,259. 0. 0.</u>
銀行借入	32,866. 11. 0.		69,880. 15. 0.
取引責任者に	2,110. 0. 0.	償却	<u>△775. 0. 0.</u>
毛機布リザーブ	300. 0. 0.		69,105. 15. 0.
超過利潤税引当後		機械	97,675. 16. 7.

の損益勘定	<u>16,471. 9. 9.</u>	追加	<u>4,986. 10. 0.</u>
			102,662. 6. 7.
		中古機売却	<u>△310. 1. 0.</u>
		償却	<u>△3,665. 0. 0.</u>
			98,687. 5. 7.
		ボイラー・エンジン	22,540. 11. 0.
		償却	<u>△560. 0. 0.</u>
			21,980. 11. 0.
		(固定資産合計	189,773. 11. 7.)
		損益バランス	<u>△14,969. 11. 2.</u>
			174,804. 0. 5.
		手許現金	99. 18. 9.
		債権	16,045. 0. 5.
		戦時貸付	10,000. 0. 0.
		創業費	915. 0. 0.
		在庫	<u>70,769. 12. 11.</u>
	<u>£ 272,634. 6. 11.</u>		<u>£ 272,634. 6. 11.</u>

Newby Mill 貸借対照表

1929. 1/6

資本と負債		資産	
株式資本	250,000. 0. 0.	建物, 機械, ボイラー	
		等差引償却	277,743. 3. 1.
£ 1 株	200,000. 0. 0.	在庫品	10,485. 5. 3.
失権株	<u>△30,100. 0. 0.</u>	債権	5,572. 0. 0.
	169,900. 0. 0.	銀行預金	7,995. 13. 6.
差引未払	<u>△3,310. 2. 4.</u>	手許現金	40. 10. 0.
資本	166,589. 17. 8.	繰越勘定	938. 16. 11.
失権株	19,501. 10. 0.	創業費	2,071. 5. 7.
未払配当	3. 15. 0.	投資	272. 0. 0.
税金リザーブを含む債権者	8,728. 9. 7.	損益勘定	142,192. 19. 11.
ローンと整理計画 (1926)			
の債権者とそれに対する利子	<u>252,489. 2. 0.</u>		
	<u>£ 447,312. 14. 3.</u>		<u>£ 447,312. 14. 3.</u>

B. T. 31/32352. X/J. 5342.

Newby Mill 自発的清算

清算人報告書

ここでは当企業の清算が行われ、その資産が処分された方法について報告が行われる。

御承知のように私は 1930 年 2 月 21 日に清算人として任命され、その唯一の目的は企業と責任者と L. C. C. の間で作られた整理計画を実行に移すことにあった。

時が経過するうちに資産は L. C. C. に運送され、交換に私は購入要件への調整が、現金債権者の金額 £ 3,363.114. の純損失により必要となり、整理計画を準備するに当たって使用された概算的数字と比較され、それはスクリップ (仮証券) に相応して増大することになった。整理計画に従っての当社 (L. C. C.) の仮証券の割当は債権者と株主に正当に行われ、配布された夫々の数量の細目は添えられた資料にある通りである。未請求の資本と未払い分への請求は整理計画では £ 1,200 と評定される。現実請求によって集められた資金は £ 1,262.4.3. に達し、集金のための費用を差引いた後のバランスは L. C. C. と担保のない債権者の間で等しく分配された。

B. T. 31 32352 X/J 5342

Newby Mill

清算人の最終報告

	受取		支払
L. C. C.		優先的債権者、現金	1,048. 0. 6.
現金	1,048. 0. 6.	無担保債権者	
51/2% 社債	67,423. 0. 0.	51/2% 社債	67,423. 0. 0.
£ 1 普通株	64,551. 0. 0.	£ 1 普通株主	64,551. 0. 0.
1s 後配株	9,950. 5. 0.	1s 後配株主	3,377. 9. 0.
同支払請求	<u>213. 8. 0.</u>		135,351. 9. 0.
	143,185. 13. 6.		
株主		1s 後配株主	6,568. 6. 0.
払込請求	1,262. 4. 3.	同支払請求	<u>213. 8. 0.</u>

請求株への利子	15. 12. 7.		6,781. 14. 0.
返金された法廷費用	<u>12. 4. 8.</u>	バランス	
	1,290. 1. 6.	分配不能未払株	4. 10. 0.
ウイリアム・デーコン銀行利子	<u>4. 4. 6.</u>		
	1,294. 6. 0.	清算人報酬, 法廷費用等	164. 12. 0.
		利子収入税	5. 2. 6.
		支払い請求金の50%を	
		L. C. C. に	562. 5. 9.
		担保無債権者	<u>562. 5. 9.</u>
			1,294. 6. 0.
	<u>£ 144,479. 19. 6.</u>		<u>£ 144,479. 19. 6.</u>

Napier Mill 1907年5月13日 登記 £5株4000 資本金 £20,000

この企業は極めて小型であり、1919～20年の資本再評価も行わなかった幸運な企業であった。もっとも他の企業と同様に1930年代に入る頃にはこの幸運な企業も解散することになったのである。20世紀に入ってからの企業であるから紡機は比較的老朽化するのが遅かった。設立時の取締役は商人、工場監督者、弁護士等全てオルダムの住民で400～500株を所有している。同年株主総会で役員はローンとして取り入れた資金£16,250、株式割当当時を受け取った金額£3,750と報告している。しかし1908年7月2日になっても株主僅か15名であり、これは最後の紡績企業設立ブーム(1904～7)の末期に発足する紡績企業の特徴であり、1870年代のブーム時に常に見られたものだった。

当企業が1920年代を生存出来たのは既述の通りであるが、1929年でも株主数18名というのは非公開会社を連想させるものである。1929年の記録では株式は£3.10.0払込であり、当時取締役は設立当時と同様300～500株を所有していた。

1931年1月23日、当企業に清算人が任命され、最後はL. C. C.に売却された。その時点の負債総額£61,710.23のうちMidland Bankの債権として£21,848.15.10と£2,301.2.9との2件が最大であり、その他Equitable協同

組合の£3,300.0.9, 取締役の親縁からの£3,993.15.11, 織布企業 Buckleg & Taylor LTD からの£1,193.17.11があった。

Napir Mill 貸借対照表

1929. 11/7

(資本と負債)		(資産)	
104,000 株 1 株		貯水池付建物	
£ 3.15.0. 払込	15,000. 0. 0.	差引償却	12,349. 0. 0.
差引未払込請求	<u>△600. 0. 0.</u>	機械差引償却	21,216. 0. 0.
	14,400. 0. 0.	エンジン差引償却	6,836. 0. 0.
前払金	<u>1,238. 0. 0.</u>	綿花協会株	25. 13. 0.
	15,638. 0. 0.	債権(純)	46. 7. 4.
ローン	30,863. 19. 5.	銀行預金	1,694. 2. 7.
負債	6,390. 6. 11.	在庫品	1,552. 14. 11.
銀行借入	<u>20,358. 16. 3.</u>	手許現金	2. 13. 0.
(整理計画下)	57,613. 2. 7.	損益勘定	<u>30,100. 9. 5.</u>
債務	226. 12. 3.		
整理計画債権者に対し			
生まれた利子	61. 10. 0.		
先払い株に対する利子	24. 15. 3.		
毛ばたて布積立金	<u>259. 0. 2.</u>		
	<u>£ 73,823. 0. 3.</u>		<u>£ 73,823. 0. 3.</u>

P. R. O. B. T. 31 31968 X/J 5997

Napir Mill 紡績会社の自発的解散

清算人報告

受取		支払	
株式支払い請求	1.999. 4. 2.	株式支払い請求等	
遅延支払い利子	10. 11. 6.	清算人報酬	115. 1. 2.
法廷費用の返還	11. 2. 0.	利子への収入税	7. 13. 9.
ミドランド銀行利子	18. 12. 9.	担保なし債権者への支払等	958. 10. 3.

L. C. C. から	351. 2. 10.	優先的債権者	351. 2. 10.
5.5% 利子社債	19,434. 0. 0.	無担保債権者	
£ 1 普通株	18,601. 0. 0.	5.5% 社債所有者	19,434. 0. 0.
£ 1 後配株	2,929. 4. 0.	普通株	18,601. 0. 0.
同支払請求	<u>858. 1. 0.</u>	後配当株	984. 14. 0.
		株主支払	
		後配株所有者	1,943. 0. 0.
		支払い請求への支払い	858. 1. 0.
		分配されない残金配体	<u>1. 10. 0.</u>
	<u>£ 44,213. 3. 3.</u>		<u>£ 44,213. 3. 3.</u>

Whitland Twist Cotton Spinning Company

Ashton Under Lynn 所在

1874年6月29日、登記、資本金£80,000、16,000株

これは暫次大株主が形成された企業として特色づけられることで、更に未払い株式の割合の高い企業であった。定款は省略するとして、創立当初から、1,000株以上を所有する取締役が3名も記録されているのは異色であり、この点オルダムの企業とは全く経営風土を異にしたと言えるであろう。取締役の職業は技師を別にすれば綿糸紡績業者と記録されている。当初株主は179名であった。応募したのは僅か8,000株で50%に過ぎなかったのは、このブーム期の最中であった事を考慮しても大家族企業の支配したAshton-under-Lynnではかえって一般大衆の投資には向いていなかったのかも知れない。1879年に申し込みはようやく9,510株に達したが状況が極めて厳しかった事は、払い込み£1であったのに対し、未だ完全に払い終わっていない資本が£4-0-10存在した。5年後の1879年になると株式は早くも£4-5-0払い済みとなっており、その時株数9,510株であるのに対し6,490株は£2-10-0の支払い済みで、初期の状況の悪さがここに反映されてい

る。支払い請求に対して £ 2,169—10—0 がこれに応じていない。

この資本不足に対応して 1884 年特別決議の結果当時の株主に対して 4,000 株の追加株式が割り当てられる事が決められたが、しかしこれに応じられなかった時には「取締役は企業に最も良いと考えられる方法でそれを処分する事が出来る」と言う項目が追加されたのであった。1885 年になると払い込みは £ 4—5—0 に達しており (9,510 株)、そのうち £ 1—15—0 をキャンセルして返却し £ 2—10—0 とすることになった。配当は払込資本に対して支払われたので、これは配当を高める政策である。優良企業によく見られた払込資本の一部返却=減資に相当するものと言ってよいであろう。

1901 年の取締役は 3,743 株所有の紡績業者を始めとして、いずれも 300～600 株の所有者であった。紡績業者の他には弁護士、造船業者などの顔ぶれであった。1908 年には創業以来 1,000 株以上を保有した J. Flecher が死亡し、その株は息子の Albert Flecher に引き継がれた。

1910 年に定款が改定され、今迄大株主の権限を制限した投票権は 1 株 1 票と改められた。1919 年 3 月 20 日解散が決議された。

Whiteland Twist C. S. C. 貸借対照表

1920. 24/6

(資本と負債)		(資産)	
名目資本	450,000. 0. 0.	建物	67,698. 13. 9.
応募資本	347,493. 0. 0.	エンジン・ボイラー等	43,799. 2. 6.
1 株 10 s 支払い	173,746. 10. 0.	工場機械	272,395. 6. 10.
ローン	53,067. 1. 2.	債権	40,729. 8. 9.
取引上債務	10,968. 5. 7.	保険次期繰越	327. 1. 5.
未払配当	72. 10. 0.	在庫	56,900. 8. 3.
地代・税 引当	3,194. 16. 5.	投資、戦時ローン、国債	17,250. 0. 0.
超過利潤税引当	57,219. 2. 0.	未払配当 (銀行)	72. 10. 0.
銀行借入	188,383. 14. 10.	手許現金	<u>297. 12. 3.</u>
損益勘定	<u>12,818. 3. 9.</u>		

£ 499,470. 3. 9.

£ 499,470. 3. 9.

B. T. 31 32412 X/J 7855

Whiteland Twist

清算人の最終報告

受取		支払	
ランカシャー・コットンコーポレーション		優先的債権者に一現金	3,223. 3. 3.
現金	3,223. 3. 3.	51/2 社債所有者	64,547. 0. 0.
社債	67,547. 0. 0.	£ 1 額面 6% 優先株	33,773. 0. 0.
優先株	33,773. 0. 0.	£ 1 普通株	48,052. 0. 0.
普通株	48,052. 0. 0.	£ 1 後配株	<u>2,402. 17. 0.</u>
後配株	15,914. 1. 0.		151,774. 17. 0.
上記株式支払い請求	<u>13,414. 15. 0.</u>		
	181,923. 19. 3.	担当なし債権者	
		1/後配株	6,771. 17. 0.
諸種株主	60,179. 9. 2.	株主	
未払い株に対する利子	118. 3. 4.	1/後配株	6,737. 19. 0.
法廷費用 (回復分)	<u>102. 0. 4.</u>	同	<u>13,414. 15. 0.</u>
	60,399. 12. 10.		20,152. 14. 0.
デイストリクト銀行 から費用差引	<u>57. 17. 0.</u>	バランス	
	60,457. 9. 10.	後配株一分配不能分	<u>1. 8. 0.</u>
			181,923. 19. 3.
		法廷費用, 清算人報酬等	3,216. 6. 10.
		利子に対する所得税	48. 18. 6.
		支払い請求に対する	
		50% を L. C. C. に	<u>28,596. 2. 3.</u>
			60,457. 9. 10.
	<u>£ 242,381. 9. 1.</u>		<u>£ 242,381. 9. 1.</u>
		分割不能分は精算人勘定に振り込まれた。	

Iwell Bank C. S. C. 1892 年登記資本金 £ 120,000 £ 10 株 12,000 株

この紡績企業は可成り大型企業として出発した。株式も £ 10 額面で普通のオルダムとは異なったものであった。取締役は鉄工業者ジェントルマン 2 名工場監督等決して一様ではなく住所も各地に散在していた。定款によれば、

取締役資格名目価値£1,000であるから100株ということになる。報酬は年額で£300(93条)役員会で専務 managing director を選出できている。(122条)発足時500株所有の取締役がいたが後から500株以上の大株主が同社に加わった。1,000株を保有した法人 Lewis Loyed Co. は工事関連業者であろう。

株主数は出発時僅か20名で、申し込み株数は12,000株を計画したのに4,780株と50%にも達していなかった。

1894年9月21日に£20,000を増資して£10株8,000株と記録されているのは、この年が比較的好景気であったために申し込み株主が増加したと思われる。唯しこの増資は優先株として10%の利子をつけねば引き受け手が見られなかったのである。

1897年の株式支払い状況をみると普通株6,883株は既に£10支払い済み、800株は£5株式、6,000株は£4株式、2,000株は£0.10.0.の支払いであった。申し込み時期が異なるので払込み割合も異なっているのであるが、発行株数だけは100%とは言えぬまでも相当増加している。

1907年の資料では2名の取締役が6,500株余りを所有することにより彼等両名の企業支配を窺うことができよう。一方では株主の細分化が進み130名と株主数が増加していた。

1907年7月10日更に増資が進み、£10株5,000株が新たに発行され資本金は£250,000と出発時の倍以上になっていた。その時マンチェスターの William Deacon 銀行が1,053株の大株主となっているのは同行の支配をあらわすものであろう。増資はすべての株主が引き受けたわけではないので、同銀行の他にも技師 H. が2,500株を引き受けている。

1915年1月27日、取締役の報酬が全額で£300から£800に引き上げられているのは、大戦中の物価高が原因であろう。

1919年、£10支払い株6,787株、£8支払い株9,417株、以下同様に£5株800、£4株6,950(優先株)£2.10.0.支払い株2,000、£6支払い株(未払い株?)50株と記録されている。

払い込み金合計は£ 202,120 となっていた。普通株主数は約 400 名、優先株主数は約 220 名を提示していた。

1919年2月11日、£ 800 の報酬合計は更に£ 2,000 に引き上げられた。物価高が進行したからであろう。

1919年10月15日に新会社が登録された時、新資本金は実に£ 1,000,000 となり2倍以上であった。新定款は発足条件75%の申し込み(5条)最低申し込み株数50株(16条)最低名義移転株数20株(34条)取締役持ち株条件を1,000株と規定(84条)している。取締役は最大18,300株を持ちシヨウ村の紡績業者が記録されているが、その他は1,000~2,000株の所有者であった。職業は工場監督が多数を占めていた。87条は社長と取締役の報酬の差を記し、前者は年£ 400、後者は£ 350とした。

この工場の購入価格は£ 1,217,224 と記録されているので極めて高い価格がつけられている。増資で解散前の資本金が膨張していたからである。

1920年1月13日、解散が決議された。

1920年2月4日、株式200,000株(£ 5株)は13%の割引き(discount)で売り出された。

当社のその後の歩みは不明であるが、過大資本化したから業績が良からう筈もなかった。当社は1931年4月14日に破産が宣告され、1933年整理計画が遅まきながら決定された。

Iwell Bank C. S. C.

B. T. 32323 X/J 7690

自発的解散

清算人報告書

1934. 8/5~1937. 2/2

(負債)		(資産)	
1934. 7/5 銀行勘定	5,432. 1. 5.	法廷費用、集金された	
支払請求	10,713. 18. 4.	債権	216. 10. 5.
回復した債券	3. 2. 1.	清算人報酬(検査委員会の投票)	
投資売却分	9. 0.		844. 3. 2.
銀行利子	6. 6. 0.	清算人のために新会社によって	

配当受取分	<u>2. 5. 9.</u>	産まれた支出	200. 0. 0.
		手形帳に対する銀行への支出	4. 0. 0.
		各種支出	3. 0. 6.
		清算人が要求された配当	2. 5. 11.
		当社に請求された配当	<u>58. 12. 10.</u>
			60. 18. 9.
		整理計画実施分	14,850. 0. 0.
		企業清算勘定支払い	<u>1. 15. 9.</u>
	<u>£ 16,176. 12. 7.</u>		<u>£ 16,176. 12. 7.</u>

Hartford Mill

1906年10月24日 登記£5株式16,000 資本金£80,000

この企業は1903年頃から始まる最後の紡績企業設立ブームの末期に生誕した。定款には事業開始には最低60%の申し込みを必要とすること(4条)申込株数は最低20株(32条)取締役の年報酬は全額で£500(87条)等々の規定が見られる。取締役は250株を保有する工場監督で成り立っていた。当企業の特徴は大株主の出現で原綿ブローカーが2,000株を申請し、建設業者は1,000株を所有したので、両者で発行株数の20%程度を所有することになった。この様に紡績付随業務と係わりを持つ業者が大株主になることは往々観察されたところである。発足時の株主数は34名、申請株数は11,810株で発行予定数の70%位であり、発足には支障はなかった。

また1909年3月23日にはOldham Equitable共同組合が1,000株を引き受けている。

ところでこの間の事情は明らかではないが、当社は1915年3月7日に累積優先株(10%利子)を35,000株発行して、当初の資本金の目標に近づけようとしたが、これが利子負担を重くしたことは言うまでもない。或いは第一次大戦の好景気が係わりがあるのかも知れない。この優先株はそのほぼ2/3はボルトンの建設業者によって引き受けられた。1919年1月28日に最後の株主総会が開かれた時、株主数は76名であり、普通株15,970株でほぼ

当初の目標に達していたが、32,000株の優先株の存在は当社の営業を圧迫していたのではあるまいか。

新会社が発足した時、資本金は£260,000で3倍以上となっていた。何時もの様に工場監督の取締役の外、前出納係 Old cashire が取締役の席を占め、取締役で全株の28.4%という株式が所有された。当企業の買い手（新株主）に旧会社の負債と清算費用等が受け継がれた上に、買取価格は£269,000であった。これは新資本金とほぼ同じ程度の金額である。新取締役は全株式の28.4%を所有した。また新定款は名義移転の最低株数を20株とし（16条）取締役の報酬を年額£750と決めた（87条）。ただし、当然のことながら監査役は取締役にはなれなかった（91条）。

この時残存している資料によれば、新株主から50%、つまり£180,000が払い込まれ工場の購入のため旧株主に£130,000が支払われ、両者の合計が新資本金ということになるろうか。旧取締役のポスト放棄に対し補償金が払われたと思われるが、登記料£1,327.8.0の外は不明である。

さて紡績業の夢が消えるのはあつという間であった。1920年10月21日の記録によれば、この時まで既に売却ブームが始まっていた。新株主606名のうち205名は僅か数ヶ月で株を手放してしまい、続いた紡績不況で当社は全く配当が出来なかった。操業停止の時期は資料的に明らかでない。確かなことは1935年6月26日清算人が任命され、彼の報告によれば負債総額£138,311.3.6.、大口債権者はミドランド銀行の£40,526.13.2.。その他3名の取締役が£4,000程度の債権者として記録されている。高額の報酬を期待した彼等の受けた被害はその期待を全く裏切られ、逆に大損害を受けることになった。

B. T. 31/32314/158753

Hartford Mill 清算人報告書

1935. 25/6~1938. 30/9

(受取)		(支払)	
清算開始から銀行と		清算時からの支払	
現金勘定による	1,502. 14. 8.	賃金と保償	168, 8. 7.

土地・機械・在庫等	14,925. 19. 8.	工場維持と郵便料等	87. 0. 11
投資	3,769. 6. 2.	所得税	22. 2. 6.
清算時の支払い要求	1,375. 2. 6.	通産省への出向と広告代	28. 17. 6.
債務	907. 1. 1.	法的費用	167. 10. 11.
銀行利子	24. 11. 7.	清算人報酬	<u>1,038. 12. 10.</u>
その他各種債務	<u>69. 15. 0.</u>	全費用・負担	1,512. 13. 2.
		優先的債権者	1,163. 17. 6.
		第1回£当2s.の配当	14,004. 11. 10.
		第2回£9d.の配当	5,251. 14. 10.
		第3回£当1.1.d.の配当	<u>641. 13. 3.</u>
			<u>21,061. 17. 5.</u>
	<u>£ 22,574. 10. 8.</u>		<u>£ 22,574. 10. 8.</u>

Beal C. S. C. 1889年3月16日登記 ショウ村落

ロイトンと並んで紡績工場の密集した村落に1889年3月16日、登記された紡績企業であり、創業時と比べれば、後に紡績企業の歩む道を暗示した企業であった。例えば、最低株式数50株が申し込みの条件となっており、それ以下の株数の名義移転をしないと定款に明記している。(25条)。無期名投票の場合1株1票、取締役は全てショウ在住の者で、全て代理商、綿糸販売人、技師などが混在して、ほぼ50株を所有していた。また取締役の最低持株条件を50株以上としている。(95条)

1889年7月13日の資料では株主数90名で、これも当時としては極めて少数であり、小株主の少なかった事を物語っている。1919年には£5株のうち£3が払い込まれていた。その時取締役の持ち株数は50~300株であった。

当企業の最大の特徴は1919~1920年のあの資本再評価のブーム時にそれに乗らなかったことで、1920年以降の不況時にも解散することなく創業を続けることが出来たのであった。

1931年5月22日、解散が決議され、この時資料によれば、William Deacon's Bankへの負債、£26,933.10.10。また大口融資として、Henthorn

家から約£4,000を借入していた。その後£10,317.16.0.を返却したがその細目は不明である。

Beal C. S. C. 貸借対照表

1930. 4/6

資本と負債		資産	
資本£5株 10,000株	50,000. 0. 0.	固定資産	
株式	30,000. 0. 0.	未償却残高	43,577. 14. 1.
ローン	9,542. 4. 0.	投資	86. 2. 0.
債務	10,456. 13. 7.	前払い	138. 14. 7.
銀行勘定	<u>21,760. 5. 9.</u>	債権	4,865. 8. 5.
		在庫品	19,311. 13. 4.
		手許現金	50. 10. 2.
		損益勘定	<u>3,720. 0. 9.</u>
	<u>£ 71,859. 3. 4.</u>		<u>£ 71,759. 3. 4.</u>

T. 31 31147/28488 X/J 1260

Beal 自発的解散

清算人報告書

1931. 4/6~1936. 25/2

受取		支払	
現金, 全権委員 special		原綿	1,092. 8. 3.
マネジャ	4,264. 17. 4.	綿糸	1,287. 18. 8.
集めた負債	3,826. 16. 1.	賃金・国家保険	2,587. 6. 2.
綿糸等	9,856. 12. 5.	石炭	1,298. 19. 8.
原綿等	79. 9. 2.	輸送費	93. 12. 7.
スプリンクラー損失要求	122. 10. 0.	電燈・動力等	185. 0. 7.
マネジャ忠実へのリベート	6. 5. 0.	工場備品等	202. 4. 7.
火災保険リベート	47. 16. 9.	その他備品	83. 6. 8.
負傷労働者に対する賠償	48. 4. 2.	補修	50. 5. 6.
株式	112. 10. 0.	綿糸手数料	3. 19. 6.
銀行利子	181. 14. 5.	保険	144. 7. 6.
未払い株利子	35. 3. 4.	地代	185. 16. 2.
1株£2の支払い請求	14,616. 12. 6.	地方税	647. 10. 6.
株式配当	110. 17. 4.	原綿売却代金	62. 18. 11.
所得税払い戻し	88. 6. 0.	原綿仲買代	2. 19. 10.
株式売却	67. 10. 0.	銀行手数料	145. 18. 9.

建物売却	250. 0. 0.	所得税	61. 17. 3.
工場備品等	<u>3,500. 0. 0.</u>	先払い株式利子	51. 14. 11.
		法廷料税金	680. 2. 0.
		ミル評価税	22. 29. 0.
		スプリンクラー補修	1,334. 0. 10.
		清算人報酬, その他	46. 16. 6.
		取り引き停止税	350. 0. 0.
		12・10・7/8の配当 のための委員会出費	15. 15. 0.
		未請求分の清算勘定	
		繰り入れ分費用	<u>26,577. 5. 11.</u>
	<u>£ 37,215. 5. 3.</u>		<u>£ 37,215. 5. 3.</u>

Astley C. S. C. 1883年11月6日登記 £5株 20,000 資本金 £100,000

第1回総会の時の株主数369名であり、ここで7名の取締役が選ばれたが、彼等は工場管理者、弁護士等を含み、50~100株の所有者に過ぎなかった。1884年1月3日の株式申込数は7,774株で未だ充分とは言えなかった。1901年には既に£2.10.0の払い込みが行われていた。株数14,707株。ここでも70%であった。予定より資本不足で出達しなければならなかったのである。20世紀に入っても取締役は200株程度しか所有していない。資料が乏しく詳細は不明であるが、1920年2月23日解散決議を終えている。

1920年3月7日同社が新発足した時その資本金は£700,000と馬鹿げた数字を示していた。総株式のうち取締役だけで53.8%を保有したのは裏を返せば当企業が極めて不人気な企業ではなかったかと思わざるを得ないのである。取締役の必要持株は3,000株以上、報酬は年£250であった。工場の購入価格は現金で£300,000或は£294,140と記入されている。1922年2月9日London Joint Stock Midland Bankが金銭的には責任を負うことになった様であるが、細目全く不明1931年2月10日解散決議。その負債は£253,729.10.5と巨額のうちミッドランド銀行の債権が£120,000に達していた。

Astley

債権者の自発的解散報告書

清算人の最終報告

1931. 16/2~1938. 17/1

受取		支払	
現金・銀行預金	13,489. 12. 1	法的費用	1,036. 8. 0.
支払い請求	88,709. 9. 4.	賃金・国家保険	2,122. 7. 2.
銀行利子	857. 10. 8.	プリント・輸送・文具	595. 11. 0.
綿糸と仕掛品販売		ガス・電気	68. 13. 6.
未履行綿糸販売等	5,155. 18. 0.	修理・税等	65. 1. 9.
受取り地代	18. 19. 5.	工場と事務所の地代	975. 0. 0.
小屋地代	158. 17. 6.	その他地代	60. 10. 7.
保険ピレミアムと		旅費	103. 11. 4.
資産売却の実現部分	256. 3. 1.	収入税と銀行利子	68. 1. 0.
多種資産の売却	73. 2. 7.	通産省の支出と	32. 10. 6.
工場・土地・小屋の売却	543. 5. 4.	清算人報酬	
ブリテイッシュ・コットン		集金 £ 109,502. 8. 7. の 4%	4,380. 1. 10.
協会株の売却	158. 8. 0.	配当 £ 96,803. 17. 11.	
前衛綿糸取り引き協会		に対する 2%	<u>1,936. 1. 7.</u>
による火災保険金			6,316. 3. 5.
と資金配分等	<u>81. 2. 7.</u>	優先的請求（所得税）	1,249. 7. 0.
		£ 254,370—12—8 に対する	
		£ 当り 7 s. 7. 32 d の配当	96,787. 19. 5.
		£ 49 当り 6 s 6d の配当	<u>15. 18. 6.</u>
			<u>96,803. 17. 11.</u>
			109,497. 3. 2.
		支出をとじるために	
		保留されていたバランス	5. 5. 5.
	<u>£ 109,502. 8. 7.</u>		<u>£ 109,502. 8. 7.</u>

Vernon Mill

1981年2月9日登記 資本金 £ 70,000

ストックポートという高番手綿糸の中心地に創業された。取締役には縫糸製造業者が2名見られる。持ち株数は1,289株から100株まで広く分散している。1881年6月20日、656名という株主であった。その後短期間の内に

急速に拡大して1886年には増資に進み新株を発行した。20世紀の初頭の最大株主は、647株を所有したジェントルマンであった。1903年2月25日にはMill NO 1に次いで近代的工場の建設を特別決議によって承認した。1904年9月14日に取締役報酬が年合計£250から£350に増加した。1904年土地を抵当にして£17,500を借入したが、これは3月と6月の2回にわたって行われた。1910年2月22日新定款により取締役報酬を全額で少なくとも£70と規定した。1912年8月1日、£25,000を土地抵当。更に1913年7月19日に£10,000を追加。更に1914年4月16日に£5,000を追加。1919年の総額は£33,750に達していた。1920年4月16日、解散決議、新登録、1920年2月9日

Vernonは新しく登録された時資本金は£600,000と巨大化していた。取締役は各自20,000株程度を所有し、4名で13.8%を所有していた。取締役の報酬も各自年£500と如何にも高額に決定され、楽観論を反映したものであった。記録によれば購入価格は£807,000であった。株主数は1,500名という多数であった。1926年1月19日再建計画が計られた。そしてストックポートの7,000株所有の大株主が取締役のポストに着いたが大勢には抗し難く1930年に解散した。その時点で負債£322,992が有り、ディストリクト銀行の£130,976が大口であった。その他にA. C. Co.の£117,328という企業からの借入金もあった。当社はL. C. C.に売却された。

B/T/31 32377

Vernon Mill 貸借対照表

1920.26/4

(資本と負債)		(資産)	
名目資本		建物	119,840. 0. 0.
£1株式600,000株	600,000. 0. 0.	追加分(2度)	<u>540. 3. 0.</u>
払込資本1株10s.	300,000. 0. 0.		120,380. 3. 0.
土地抵当	30,000. 0. 0.	ボイラー等	42,047. 0. 0.
ローン	252,785. 7. 5.	償却	<u>△413. 0. 0.</u>
Manchester & Livorpool District Bank			41,634. 0. 0.
	254,726. 18. 5.	機械	698,156. 7. 6.

各種債務	26,353. 15. 4.	償却	<u>△152. 0. 0.</u>
			698,004. 7. 6.
満期の税金	3,367. 0. 0.	モーター	698,308. 7. 6.
支払い手形	64,583. 5. 1.	償却	<u>△10,185. 9. 6.</u>
			688,122. 18. 0.
未払配当	51. 10. 7.	在庫綿糸	164,204. 3. 2.
超過利潤税リザーブ	70,422. 8. 0.		
損益勘定	60,857. 15. 5.		
<u>£ 1,063,148. 0. 3.</u>			(以下不明)

Vernon Mill 貸借対照表

1929. 29/6

(資本と負債)		(資産)	
名目資本		土地・建物・機械・備品等	
£ 1 株 600,000	600,000. 0. 0.	1920. 16/4	870,456. 7. 6.
払込資本	568,800. 0. 0.	差し引きそれ以降の整理	<u>20,680. 0. 0.</u>
差引払込資本	<u>△7,443. 7. 7.</u>		849,776. 7. 6.
	561,356. 12. 5.		
失権株	6,618. 5. 7.	差し引き 1928. 31/12	
		に至る償却分	188,685. 15. 0.
再建計画の未払分	349,898. 0. 0.	当期に当たる半年分償却	5,340. 0. 0.
現取引債務	3,227. 7. 1.	綿, 綿糸, 落綿等	13,917. 11. 2.
未払配当	47. 7. 3.	手許現金	102. 8. 2.
		銀行預金	7,811. 2. 0.
国税向リザーブ	20,210. 5. 0.	投資	
旧会社超過利得税		イギリス国債	20,000. 0. 0.
E. P. D. 債務	20,144. 4. 0.	その他 2 件	<u>6. 0. 0.</u>
利子	<u>228. 9. 8.</u>		20,006. 0. 0.
		債権	
		不良債権旧リザーブ	12,734. 16. 5.
		再建計画	690. 0. 0.
		損益勘定	<u>250,718. 0. 9.</u>
<u>£ 961,730. 11. 0.</u>			<u>£ 961,730. 11. 0.</u>

B. T. 31 32377 X/J. 7855

Vernon 清算人最終報告

受取	支払
ランカッシャ・コットン・コーポレイション	優先的債権者 現金 9,081. 7. 10.
現金 9,081. 7. 10.	担保付き債権者 20,688. 0. 0.
51/2% 社債 101,336. 0. 0.	無担保債権者
£1 普通株 96,878. 0. 0.	51/2% 社債保有者 80,648. 0. 0.
1/後配株 15,040. 13. 0.	£1 普通株主 96,878. 0. 0.
同支払い請求払い 374. 4. 0.	1 シル後配株主 4,924. 13. 0.
222,710. 4. 10.	162,450. 13. 0.
多種株主から	株主
支払い請求 1,905. 10. 0.	1 シル後配株 10,113. 19. 0.
期限切れコールに対する利子 32. 19. 11.	同支払い請求 374. 4. 0.
剰余となった法廷費用 34. 3. 10.	10,488. 3. 0.
1,972. 13. 9.	バランス
デイストリクト銀行利子差引費用 31. 13. 2.	後配株—分配出来ぬ分 2. 1. 0.
2,004. 6. 11.	222,710. 4. 10.
	清算人法廷費用・法廷費用等 318. 13. 7.
	利子に対する所得税 12. 8. 10.
	株式払い込み分の
	50% を L. C. C. に 836. 12. 3.
	2,004. 6. 11.
<u>£ 224,714. 11. 9.</u>	<u>£ 224,714. 11. 9.</u>

分配出来ぬ後配株は 1/3 d で売られ
精算勘定に入れられた。

付録

オルダム・クロニクル 1889年1月12日8頁

次に示された表はオルダム地域における紡績会社の収益等を提示したものであり、偶然筆者が発見したものである。当論文では特に1年間の資産の償却率を示している。対象となった企業は貸借表を入手できたものであろう。言うまでもなく1890年以前に登記された企業である。

4% 以下(ほぼ3% 台)	4~5%	5~6%	8%
---------------	------	------	----

(紡績会社 C. S. C. を省略する。)

Clough	Astley	Centlal	Boundary
Hathershaw	Broadway	Grosnor	Parkside

Parkside	Cokdhurst	Haugh	Park & Sandy
Ridgefield	Commercial		Livingstone
Woodstock	Crawford		Oak
Broadway	Crompton		
Higginshaw	以下 24 企業		
Equitable			
Hollingwood			
Longfield			
Quick Edge			
Royton			
Lower Moor			
Sun			
Westwood			
Hope			
Greenacre			
Lannsdowne			

筆者の印象は償却率は決して小さくなく 20 年から 25 年程度で紡績の代替が可能だということになるが、この問題に関しては拙稿の「紡績機のリプレースメントを廻る一資料」一橋論叢第 105 巻 5 号 pp. 19~29 頁を参照されたい。

① Directory Cotton Spinners, 1913 年より

- Newby Mill 後身は Elm C. S. C. ショウに位置して 73,052 ミュールと 3,000 リングを装備した。30—36 番手の撚糸と 30—40 番手の横糸を生産しアメリカ綿を原料とした。
- Napier C. S. C. オルダムに位置し 1907 年に登記された。12,480 ミュール紡機と 14,464 リング紡績機を所有し 24—36 番手の撚糸を生産しアメリカ綿を原料とした。
- Whitland Zwist C. S. C. アシュトンに位置し 1884 年に登記された。141,000 ミュール紡機を有した大型企業。40—60 番手の撚糸と 28—38 番手の横糸を生産しアメリカ綿を原料とした。
- I well Bank C. S. C. フォーンウオースに位置し 1892 年に登記された。326,160 ミュールを所有した大型企業。40—110 番手の撚糸と 60—160 番手の横糸を生産しエジプト綿を使用した。
典型的細番手生産企業であった。

- Hatford C. S. C. オルダムに位置し1960年に登記された、120,000紡機を所有して34—44番手の横糸と36—38番手の撚糸を生産してアメリカ綿を原料とした。
- Beal C. S. C. クロプトンに位置し1889年に登記された97,928ミュール紡機を所有した。40—44番手の撚糸と50—64ミュールの横糸を生産しアメリカ綿を原料とした。
- Astley C. S. C. ダキンフィールドに位置し1884年に登記されミュール紡機91,724錘を装備して30—38番手の撚糸と36—44番手の横糸を生産した。

② Julian Hunt & Duncan Gurr “The Cotton Mills of Oldham” より

- Newby(Elm)Mill ショウに位置し、1890年に登記された。1919—20年に拡張され76,860ミュールと2,976リング紡機を所有した。1928年操業を中止したが、L. C. C.により再開をされてNewbyと呼ばれた。1964年コートルズに吸収されたが、1970年に閉鎖された。
- Napier Mill オルダムに位置し、12,480ミュールと14,460リング紡機を所有した。1875年にCambridge Millにより吸収され企業はNapierと呼ばれた。1933年に操業を中止。
- Beal C. S. C. ショウに位置し、紡機は97,928錘を所有した。1889年に登記されたが、1933年に操業を中止。その後放置された。
- Hartford Mill オルダムに位置し、古い工場は1798年に建設され、新工場は1821—4年に建設されたが、その後両工場とも閉鎖された。1907年同名の工場として新しく建設されて120,000紡機を所有した。1920年と1924年に拡張されたが、1959年に操業が中止された。

(一橋大学名誉教授)